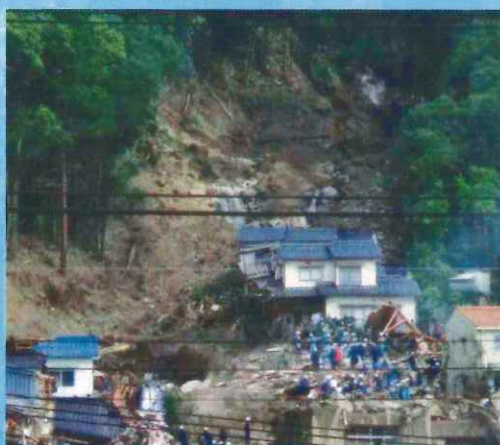
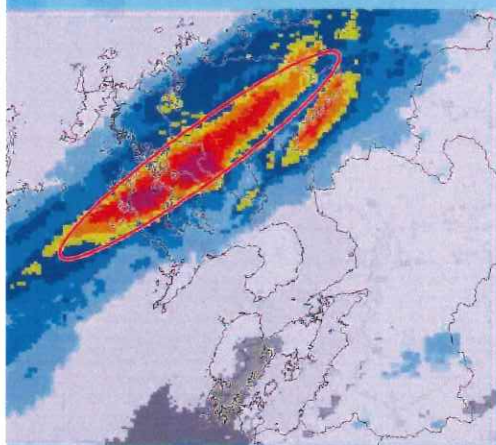


大雨や台風に備えて

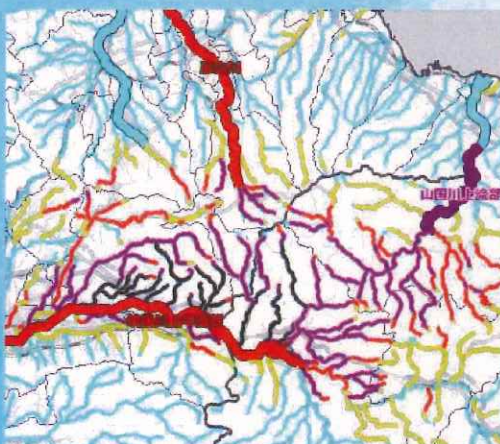


気象庁
あしたの天気予報検索
検索・お知らせ

検索 条件 検索方法 検索済の履歴

警報・注意報 (発表状況)

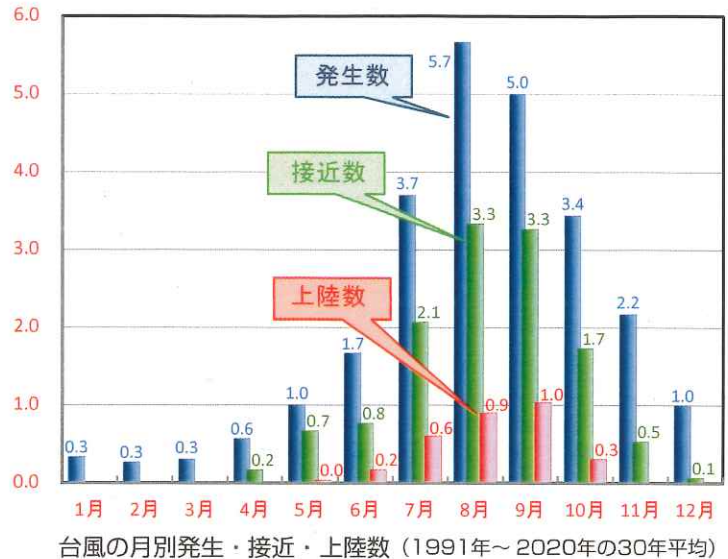
観測市	15日	16日	17日	18日	19日	備考・ 懸念する現象	
大雨 (浸水)	1	23	15	10		雨水注意	
洪水							
暴風	15	20	20	20	20	15	吹寄せ注意
豪雨	15	20	20	20	20	20	吹寄せ注意
強風	1	7	8	8	8	1	注意
暴風	0.9	0.9	1.6	1.7			ピークは注意
暴風							吹寄せ水、土砂災害
暴風							観測のゲージ以下
暴風							吹寄せ注意



台風とは

熱帯や亜熱帯の海洋上で発生する低気圧を「熱帯低気圧」と呼び、このうち北西太平洋または南シナ海で発達して低気圧域内の最大風速（10分間平均風速の最大値）が34ノット（約17m/s）以上になったものを「台風」と呼びます。

台風は一年間に平均して25個程度発生し、12個程度日本に接近、3個程度が日本に上陸しています。発生・接近・上陸ともに、7月から10月にかけて最も多くなります。



台風の強さ

台風の強さは、その最大風速により下の表のように決めています。

台風の強さ

台風の強さ	最大風速
猛烈な	54m/s以上
非常に強い	44m/s以上～54m/s未満
強い	33m/s以上～44m/s未満
(表現しない)	33m/s未満

半数以上の台風が、「強い」以上の階級まで発達しています。



強さ別の台風の発生割合 (1991年～2020年)

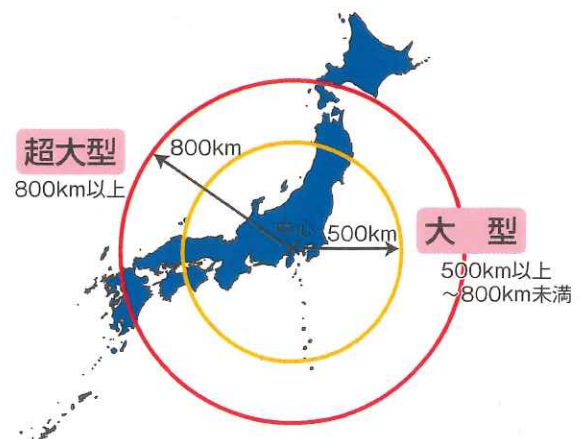
台風の大きさ

台風の大きさは、強風域（10分間平均風速で15m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲）の大きさによって下の表や図のように決めています。台風は数百kmの水平スケールをもつ大きな自然現象であり、中心付近でのみ災害が起こるわけではありません。

暴風域や強風域の情報に注意が必要です。また、台風から離れたところでも大雨による災害が発生します。

台風の大きさ

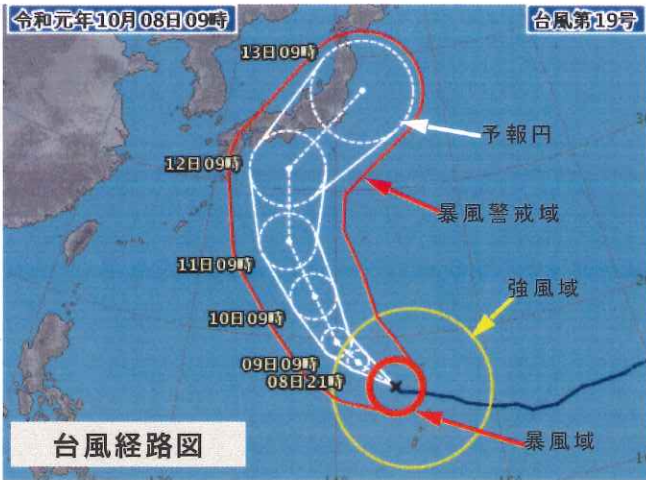
台風の大きさ	強風域の半径
超大型（非常に大きい）	800km以上
大型（大きい）	500km以上～800km未満
(表現しない)	500km未満



台風の情報

気象庁は台風の発生が見込まれる24時間前から台風情報を発表します。

台風経路図、全般台風情報



予報円 (白い破線の円) 台風が中心が入る確率が70%	強風域 (黄色い円) 15m/s以上の風の範囲
暴風警戒域 (赤線の囲み) 暴風域に入るおそれのある範囲	暴風域 (赤い円) 25m/s以上の風の範囲

台風の位置や強さなどの実況と12時間先、24時間先の予報を3時間ごとに発表し、さらに5日先までの24時間刻みの予報を6時間ごとに発表します。

また、台風が日本に接近する場合などは、「全般台風情報」で台風の今後の見通しや防災にかかわる情報などを発表します。なお、熱帯低気圧の場合は標題が「発達する熱帯低気圧に関する情報」となります。

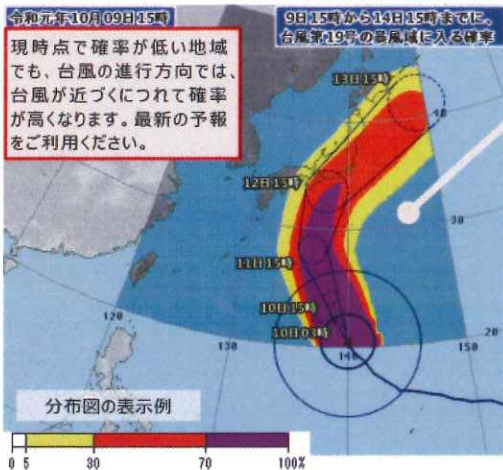
全般台風情報

▼ 令和元年東日本台風の例 (台風第19号)

令和元年 台風第19号に関する情報 第32号
令和元年10月10日17時25分 気象庁予報部発表

(見出し)
大型で猛烈な台風第19号の影響により、11日までは、東日本太平洋側から南西諸島にかけての広い範囲で猛烈なしけや大しけとなる見込みです。台風はその後、非常に強い勢力を保ったまま、12日午後から13日にかけて、紀伊半島から東日本にかなり接近または上陸し、東日本を中心とした広い範囲で

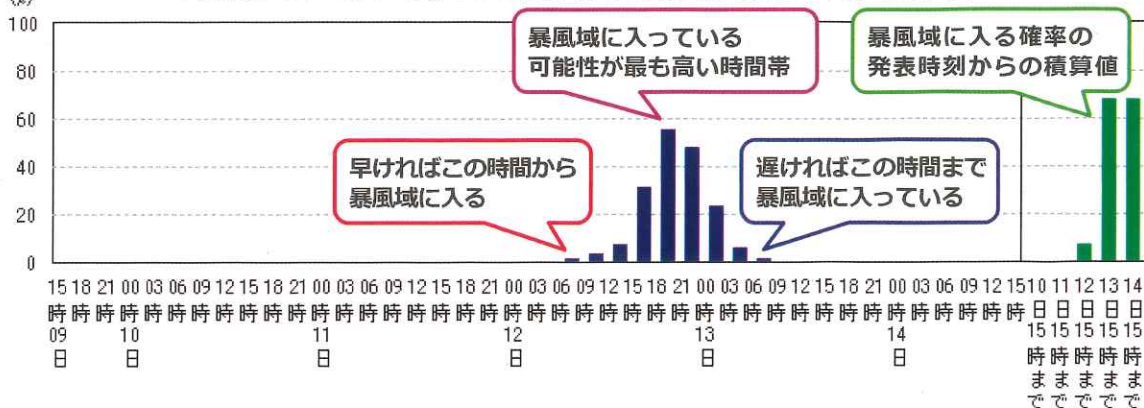
暴風域に入る確率



5日先までの暴風域 (10分間平均風速で25m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲) に入る確率を分布図と地域ごとの時間変化のグラフで示して6時間ごとに発表します。

早ければ値が出はじめる時間帯から暴風域に入る可能性があります。値がピークの時間帯は、最も暴風域に入っている可能性が高い時間帯です。また、値が小さくなった時間帯でも、まだ暴風域に入っている可能性があることに注意が必要です。

時系列グラフでは、地域ごとの暴風域に入る時間帯を知ることができます。



自分で行う災害への備え

台風や大雨は、毎年大きな災害をもたらします。警報などの防災気象情報を利用して、被害を未然に防いだり、軽減することが可能です。テレビやラジオなどの気象情報に十分注意してください。台風や大雨の危険が近づいているというニュースや気象情報を見たり聞いたりしたら、災害への備えをもう一度確認しましょう。

また、いざという時には、周囲の人にも声をかけ、躊躇せず避難しましょう。

1. 家の外の備え

大雨が降る前、風が強くなる前に行いましょう。

- 窓や雨戸はしっかりとカギをかけ、必要に応じて補強する。
- 側溝や排水口は掃除して水はけを良くしておく。
- 風で飛ばされそうな物は飛ばないように固定したり、家の中へ格納する。



2. 家の中の備え

- 非常用品の確認
 - ・懐中電灯 ・携帯用ラジオ（乾電池） ・救急薬品 ・衣類
 - ・非常用食品 ・携帯ボンベ式コンロ ・貴重品など

●室内からの安全対策

飛散防止フィルムなどを窓ガラスに貼ったり、万一の飛来物の飛び込みに備えてカーテンやブラインドをおろしておく。

●水の確保

断水に備えて飲料水を確保するほか、浴槽に水を張るなどして生活用水を確保する。



3. 避難場所の確認など

- 土砂災害や洪水災害の危険性が認められる場所を、市町村等のハザードマップで確認しておく。
- 学校や公民館など、避難場所として指定されている場所への避難経路を確認しておく。
- 普段から家族で避難場所や連絡方法などを話し合っておく。
- 避難するときは、持ち物を最小限にして、両手が使えるようにしておく。



リュックサック

食料品等

- 飲料水
- 乾パンやクラッカーなど
- レトルト食品、缶詰
- 粉ミルク、哺乳ビンなど

日用品

- ナイフ、缶切り
- 鍋や水筒
- 懐中電灯
- ラジオ
- 電池
- ロープ
- マッチやライター
- 使い捨てのカイロ
- ティッシュなど
- 筆記用具
- ごみ袋

その他

- 防災頭巾やヘルメット
- 予備の眼鏡など
- 地図

医薬品等

- 救急医薬品
- 常備薬
- マスク
- 紙おむつ
- 生理用品

貴重品、お金

- 現金（小銭も）
- 預金通帳など
- 印鑑
- 健康保険証など
- 身分証明書

衣服

- 下着
- タオル
- 寝袋
- 雨具
- 軍手
- 靴



災害・避難カード

どのような避難行動をとれば良いか、立退き避難をする場合にどこに行けば良いか、避難に際してどのような情報に着目すれば良いかは、お住まいの地域や想定される災害毎に異なります。

自治体から避難情報が発令された時に、適切な避難行動をとるため、あらかじめ想定される災害毎に右記のような「災害・避難カード」を作成し、災害に備えましょう。

災害・避難カード（例）

【〇〇市〇〇町〇丁目〇番地〇号：避難が必要となる災害と避難方法等】

災害	避難行動	注視する情報
A川の洪水	自宅2階	洪水警報の危険度分布
B川の洪水	〇〇避難場所	B川氾濫危険情報
土砂災害	△△避難場所	土砂災害警戒情報

◆雨の強さと降り方

1時間雨量 (mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る。	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる		傘は全く役に立たなくなる	
屋内（木造住宅を想定）	雨の音で話し声が良く聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に乗っていて		ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる（ハイドロプレーニング現象）	車の運転は危険	

◆風の強さと吹き方

平均風速 (m/s)	10以上～15未満	15以上～20未満	20以上～25未満	25以上～30未満	30以上～35未満	35以上～40未満	40以上～
おおよその時速	～50km	～70km	～90km	～110km	～125km	～140km	140km～
風の強さ（予報用語）	やや強い風	強い風	非常に強い風		猛烈な風		
速さの目安	一般道路の自動車		高速道路の自動車		特急電車		
人への影響	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。	何かにつかまっていないと立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。		屋外での行動は極めて危険。		
屋外・樹木の様子	樹木全体が揺れ始める。電線が揺れ始める。	電線が鳴り始める。看板やタン板が外れ始める。	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く。		多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。		
走行中の車	道路の吹流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚を受ける。	高速運転中では、横風に流される感覚が大きくなる。	通常ので速度で運転するのが困難になる。		走行中のトラックが横転する。		
建造物	樋（とい）が揺れ始める。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。雨戸やシャッターが揺れる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。ビニールハウスのフィルム（被覆材）が広範囲に破れる。	固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。養生の不十分な仮設足場が崩落する。	外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。	住家で倒壊するものがある。鉄骨構造物で変形するものがある。	
おおよその瞬間風速 (m/s)	20		30		40		60

防災気象情報などの入手方法

気象庁は、発表した防災気象情報を自治体や防災機関に直ちに伝達すると同時に、テレビやラジオ、インターネット等を通じて広く国民にお知らせしています。

この防災気象情報は、パソコンだけではなく、携帯電話やスマートフォン等からも簡単に入手することができますので、ぜひご活用ください。

防災気象情報の主な入手方法

●気象庁ホームページ

<https://www.jma.go.jp/>

警報・注意報、台風情報、解析雨量、キキクル(危険度分布)など、気象庁が発表している防災気象情報は、気象庁ホームページで御覧になれます。



●国土交通省防災情報提供センターの携帯電話用サイト

警報・注意報、気象情報、河川情報、降水ナウキャスト等を掲載しています。携帯電話(フィーチャーフォン)での閲覧に適しています。

<https://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/i-index.html>



●気象会社の情報提供サービス

気象会社の中には、防災情報のウェブサイトを開設したり、電子メールによる防災気象情報の配信サービス等を行っているところがあります。

サービス一覧：<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/info/keitai.html>



●キキクル(危険度分布)の通知サービス

土砂災害や洪水災害からの自主避難の判断に役立てていただくための「キキクル(危険度分布)」について、危険度の高まりをプッシュ型で通知するサービスを、気象庁の協力のもとで、民間事業者が実施しています。

サービスの概要、利用方法：

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/bosai/ame_push.html



●都道府県や市町村の情報提供サービス

自治体の中には、住民向けの防災ウェブサイトを開設したり、電子メールによる防災気象情報の配信サービス等を行っているところがあります。

サービス一覧：<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/info/jichitai.html>



●テレビ・ラジオ

ニュースや天気予報番組で気象の見通しや警報・注意報の発表状況が放送されています(テレビのデータ放送では常時放送)。



 **気象庁** Japan Meteorological Agency

〒105-8431 東京都港区虎ノ門3丁目6番9号
電話：(03) 6758-3900 (代表)
FAX：(03) 3434-9086 (耳の不自由な方向け)